

蓼科高同窓会報

発行
蓼科高等学校
同窓会事務局
0267-56-1015



桜が咲き誇る四月の蓼科高校



蓼科高等学校 教育の夜明け

同窓会長 芝間 教男

明治三十二年三月、北佐久郡参事会では当校設立に際し、二百円の補助金交付を決定がされています。

これに対し、当初の建築費総額並びに敷地購入代金の総計は六千六百八十三円六十五銭三厘にのぼり、残額は地元芦田、横鳥、三都和村山村からの支出と、実に多くの方々からの寄附によるものです。日本の近代教育の幕開けは、明治五年の「学制」発布にはじまり、次々と小学校が設

立されていきました。

また、小学校教育が充実してくる中で、更に上級の学校設立が全国的に盛り上がりを見せ、長野県に於いても現在の松本深志や上田、飯田、長野高校と都市部を中心に学校が開設されていきました。

更に日本の富国強兵の推進の中で実業教育の高まりの中で小県蚕学校（現、上田東高校）などが開校されています。当時、立科の他にも多くの地域で学校を建てたいと要望



コロナに負けない蓼高生

校長 宮澤 和人

日頃より本校の教育活動を、格別なるご支援とご指導を賜り、感謝申し上げます。さて、今春より、悪夢のような新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、県内の公立高校は四月八日から五月いっぱいまで約二か月の特別休業、異例づくめの令和二年度のスタートになりました。そのために、同窓会本会総会、東京支会総会に伴う野球部遠征など、様々な行事が中止になってしまったことは、誠に残念な至極のことでございます。地域

連携授業をはじめクラスマッチや、生徒総会などの生徒会行事の多くを断念、クラブ活動、大会、コンクール参加の中止、感染予防のために、ポプラ祭も一般公開はできず、校内祭として一日開催となりました。その影響で、ポプラ祭と同時間開催予定でした創立百二十年記念行事も翌年へ延期となりました。現在、本校では生徒の安全安心を第一として感染予防に取り組みつつ、その上で生徒にとつて最善の学校活動を行えるよう苦心していると報告です。生徒にとつて苦しいことが

がありました。その様な中で、条件の良い土地を用意し、多くの資金も調達して三村の方々は、この農村の地になんと県下九番目に学校を創設することを成し遂げました。その「高等の学び舎を作りたい」と熱望した先人の想いは幾ばくのことであつたでしょう。その先人の情熱を思うとき、この蓼科高校は絶対に存続させていかなければならない。幾度となく廃校の危機に遭いながらも、先人達が守り育てて来たこの教育の場を守つていくことが長となつた使命だと私は肝に命じている次第です。多い半年でしたが、生徒はコロナには負けていません。ポプラ祭の取り組みなど、体育館の発表では密を避けてライブビューイング会場を別に設営するなど、制限の多いところをどう工夫して思い出しに残る文化祭にするか、例年より活発に活動しているといつても過言ではありません。また、生徒会の生徒諸君が話し合つて、自主的に毎朝夕昇降口に立ち、挨拶運動を展開して響け、閉塞的だった学校の雰囲気が一変しました。今後も、自ら考え逆境にも打ち勝つたくましい生徒、他人の気持ちに共感し行動できる生徒が育つてくれることを期待しています。